

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201296		
法人名	有限会社 ひいらぎホーム		
事業所名	グループホームひいらぎ		
所在地	群馬県高崎市我峰町889番地		
自己評価作成日	平成26年3月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市富士見町小暮 704-2		
訪問調査日	平成26年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共用空間であるホールは天井が高く吹き抜けとなっているため広々としており、構造上の工夫から圧迫感が無い。天窓も設置されているのでホールの採光は程よい明るさとなっている。施設全体に匂いも無く清潔感があり、水槽や観葉植物が配置され生活感がある。職員の言動は穏やかで落ち着いた雰囲気の中でのケアが実践されている事から利用者も安心感を持って穏やかに過ごされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「快活厚志介護」「人望人脈」の2点を運営理念としている。	職員と考案した人との繋がり(利用者・家族・地域住民等)を大切に踏まえた理念を掲げている。職員採用時のオリエンテーションや日頃からケアの中で話し合う等、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での祭事等に参加できる利用者様は参加していただいている。また散歩時に地域の方との交流もある。	地域の神社へ初詣や花祭りに利用者とは出かけている。近所の保育園児の慰問や4年に1度の村祭りに町内会として参加する等で交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は主に取り組んでいる事はありません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではご家族様、地域の方、市職員の方からの情報や意見の交流をいただいています。ホームからは活動報告、議題を提供している。	年6回開催され、市職員・家族・地域住民・施設職員等が出席し、施設の活動や状況報告を行ったり議題提示等で意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在、市町村との連携は運営推進会議のみです。	月1回市から派遣の介護相談員を受け入れている。介護認定の申請手続きは家族に記録の説明や手伝いを行っているが希望があれば代行して手続き等、市担当者と確認している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはいろいろ検討している。玄関の施錠も暖かい時期は開錠する時間を設けている。	玄関は日常的には施錠しているが、利用者の状態に応じて開錠を心掛けている。ホールと接する内側の戸は施錠してあり自由に玄関に行くことは出来ない。身体拘束についての研修は実施していない。	身体拘束についての研修を行い、玄関の施錠も身体拘束に当たることを再認識し、その弊害等を確認の上、職員間で工夫して安全を確保しつつ自由な暮らしを支援できるケアの実践を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会を行いたいと思っているがまだ実施できていない状況です。来年度に勉強会を実施予定です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も権利擁護サービスを受けている利用者様がおられます。必要ならご家族様へのご紹介もさせて頂いております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にはご家族様へよくご説明を行い、ご理解をしていただくよう努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や第三者機関の窓口等も説明させて頂いております。又、意見箱も設置しております。普段の会話等からお話しやすい関係作りを行い、聞き取るようにしています。	家族の面会時には意見を聞くように心がけ、会話の内容を聞き取った職員が申し送り簿や日誌に記録し、事務長が確認を行い検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からはいろいろな意見、提案等の提供を促しております。	月1回の勉強会やケース会議で全員が意見を出し合っている。勤務表は職員の希望を取り入れ作成している。勤務変更は業務に支障のないように職員間で協力し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々能力、意思を把握する様に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回勉強会を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の集会や意見交換会等にも積極的に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に極力ご本人様に一度お会いする機会を設けている。又、利用者様から、いろいろな意見等をいただける様職員の接し方に注意をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様とはよく話し合い、ご利用者様の状況と一緒にご家族様の状況を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で重要度を見極め、ご利用者、ご家族様と一緒にどこに重点をおいて行くか話し合っている。又、他サービスのご説明も行いご家族と協議をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の情報を元にいろいろなケースを試していき、ご利用者が協力して生活している自信や安心感を持てる様接していくよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には月に一度は来所していただく様促し、お支払いや受診時に情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様からの要望が無いかぎり面会、外出に制限はありません。今までの医療機関や理美容等に極力、ご家族様をお願いをして継続していただいている。	以前から行っていた裁縫や野菜の皮むき等出来る事は依頼して手伝ってもらっている。友人の面会や家族と美容院へ出かける等継続的に行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人一人の状態を把握し、ご利用者様が協力して生活を送れる様努めています。個人の認知症の状態により難しいケースもありますが一人一人と共に全体的なケアでカバーしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご利用者様、ご家族様にもいつでも遊びに来て下さいと声を掛けている。ご迷惑のかからない程度に面会等にも伺わせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様一人一人に希望を伺っている。又、困難な場合はご家族様と協議をし、ご家族様には気付きにくい、第三者だからわかる事等情報提供して検討をしている。	利用者個々の聞き取りや家族の面会時等で意向を確認している。また、日常の様子や申し送り、介護記録等の情報に基づいてケース会議にて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、以前利用されていた、医療機関、介護施設等と連携をとり、情報を頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様一人一人の状態を把握し、日々の変化に注意をし、出来る事出来ない事を見極め極力ご本人様ご自身での生活が送れる様支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回のケース会議にてご家族様からの意見や職員からの意見をもとに検討している。毎月のモニタリング、介護計画は3ヶ月で見直しとなっている。	月1回ケース会議にてモニタリングを行い、サービス担当者会議を基に3か月毎の定期的な介護計画の見直しが行われている。状態変化の際は随時見直しをしている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等で気がついた事や、提案等がある場合は計画作成担当者、管理者にすぐ報告し検討を皆で行い、必要があった場合は計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化は難しいが利用申し込み等でグループホームの入所基準に当てはまらない方や、居宅での対応で十分と思われる場合等は他サービスをご紹介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々の慰問や、地域の祭事等にもできる範囲で参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にご利用者様のかかりつけ医を主治医とし、受診してもらっている。又、かかりつけ医がいないケースにはホーム協力医を紹介している。	原則、入居前からのかかりつけ医の継続を依頼しているが施設協力医への希望が有る場合は紹介している。協力医による2週間に1回の往診がある。歯科等の受診は家族だが状況に応じて受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護職員との連携は取れていないが、必要があればかかりつけ医や協力医と連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院した場合、連絡を取り合っている。必要があれば情報提供書を提出している。又入院中にも伺い連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ご家族様、医療機関と協議をしてこれからの方針を考えていく。	重度化や終末期に関する指針は作成していないが、家族と協力医やかかりつけ医と連絡を取り、口頭での説明や相談を行う等で対応内容は決めている。	実際に行われている内容をまとめ、独自の重度化や終末期のあり方について文章化し、入居時や随時に活用してはどうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成している。又、救急処置訓練も二年に一度実施している。緊急連絡先表を作成しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(一回は夜間想定)の避難訓練を実施している。又、大型災害に備えて災害時対応マニュアルを作成している。	H25年8月30日消防署立会いの下、避難・消火訓練。10月30日に夜間想定避難訓練を実施。非常時用の自家発電機を整備し、非常食として3日分程度のインスタント食品等を備蓄している。	非常時に備え、職員一人ひとりが適切に避難誘導等ができるよう、日頃から定期的な自主訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様のプライバシー、プライドに配慮した対応を行い、最深の注意を払う。特に言葉使いに注意をする様にしている。	利用者のプライドに配慮し、言葉づかい・優しさ・丁寧さを心掛け勉強会で確認し合っている。日頃から、事務長より丁寧な言葉づかいについて指導があり、事あるごとに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いや希望はご家族様、ご利用者様と相談し決定している。又、思っても言葉にしないケースも把握出来る様努めている。又、話しやすい関係作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活に支障がないかぎり、ご利用者間個々の状況に合わせて希望にそって生活を送っていただいている。他の入居者への影響も考え行動している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は希望があればホームでの対応を行っている。個々にあった身だしなみが出来る様努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆で食べる喜びを知って頂く為、必ずホールにて食べて頂いている。メニューにもご利用者の希望を取り入れながら、旬の物で季節感が出る様に配慮している。	誕生会の昼食等、利用者の話を聞きながら献立を作成し、ちらし寿司や肉料理等の希望を取り入れている。職員も一緒に食べており、正月・節句・七夕・クリスマス等のイベント食の実施や餅つき大会を行い利用者と一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は個人差があり、ご利用者様個々に調整をしている。また認知症によって摂取困難なケースは医師と連携を取り対応している。個々の習慣等により量や摂取経過時間を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後ご本人様にさせていただき、確認をしている。出来ない方にもまずはご自身でしていただきその後介助にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄機能を失わない様極力紙パンツ等の使用をさせ、(本人が失敗により気落ちする場を除外)排泄の時間等個々に合わせて誘導を行い、気持ちよく排泄出来る様努めている。認知度により排便時は介助を行う。	排泄チェック表の活用により、個別の排泄パターンに合わせて声かけや誘導等でトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方が多いため主治医と連携をとり、お薬や、運動、食事等で対応している。一週間排便がない場合は主治医へ連絡をとる様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回火、金となっています。必要に応じてシャワー浴、足浴等を行っております。入浴拒否や外出等で入浴できなかった方には週一回特別入浴日を設定しています。	週2回(火・金)全員の入浴を実施している。拒否や状況等に対しては土曜と日曜に入浴日を設け最低週2回の入浴を確保している。又、状態に応じて足浴や清拭を行っている。	入浴日を設定することなく、利用者の入浴に対する意向や習慣に沿いながら希望やタイミングに合わせた支援への工夫を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用様が安眠出来る様照明や、お部屋の家具、ベッドの位置を調整している。日中もご利用者様個々に合わせて昼寝をされる方もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬事故がない様にチェック表を作成している。受診時や往診時に服薬での状態や変化等を報告している。又、服薬関係については管理者、計画作成者、ホーム長で管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用様に役割分担等を決めて張り合いや喜びを実感していただく(カーテン開閉やテーブル拭き、ゴミ捨て、献立表の記入等)。個々により差がありそれが原因で問題が発生しない様工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場、冬場以外は午前中に散歩に出かけております。地域の祭事にも参加出来る方は参加させて頂いております。春のお花見は極力全員参加で行っております。	天候に応じて、日常的に施設周辺の散歩を行っている。初詣や花見等季節毎にドライブの機会を作っている。又、家族や友人と出かける人もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは基本的には現金の所持はお断りしております。ご本人様が持っていないと不安になってしまう等希望があった場合は対応しております。立て替え、お預かり、ご本人様での所持と個々にご家族様と話し合いで決めております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご家族様とご利用者様と協議をして、個々にあった利用をしていただいている。手紙や電話等の希望があった場合はご家族様に確認をとり対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった温度調整(夏は暑く冬は寒く)を行い、季節感ができるようにしています。空間によって扉と床の色を同色にしております。ホール内にも雛人形、五月人形、七夕飾り、クリスマスツリー等を設置し季節感ができるようにしています。	ホールの天井が高く天窓が設置され、広い空間と天窓からの採光でホールは明るい。観葉植物や水槽があり落ち着いた雰囲気が醸し出されている。ソファや畳のスペースがあり利用者の好みに合った居場所づくりへの工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳等があり、ご利用者様個々にあった利用をしていただく様にしています。ホールの席には十分注意をはらい検討を行っております。居室での時間が多い方にはホールへの声掛けもしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご利用者様、ご家族様と話し合いをし、家具の設置を行い、家具もご自宅や使い慣れた物をすすめていますが、運搬が難しいケースもあり、簡易的なケース等の利用が多いです。	家族の位牌・タンス・若い頃の写真・時計・使い慣れた寝具等が持ち込まれ、それぞれの利用者がくつろげる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様、個々で出来る事介助が必要な事を見極め、極力ご自身での自立した生活をご本人様に負担なく送っていただける様、自尊心やプライドに注意をして支援にあつている。又、日々の変化等にも注意をしている。		